○合同納骨塚について

資料1-1

1 令和5年度合同納骨塚町民アンケート結果

（１）町民アンケート実施期間

令和５年７月１９日（水）から７月３１日（月）

（２）送付及び回答数（回答総数：512 人）

＜町内在住の２０代以上の町民＞送付数：700 通　回答者：229 人（回答率 32.7%）
＜家族に障がいを持つ方の会＞　送付数： 39 通　回答者： 15 人（回答率 38.5%）
＜芽室町公式 LINE アカウント登録者＞　回答者：274 人
登録者：5,138 人（令和５年７月１８日現在）

（３）アンケート内容分析結果

① 墓地返還後の改葬先について

いずれのアンケートにおいても、寺社や民間施設、自治体が設置する合葬墓に永代供養ができる場所を望む方が多い結果となり、町内外の霊園や納骨堂の回答数を上回る結果であった。

② 回答者自身や家族の納骨先について

項目ごとの回答では、宗派に関係なく、永代供養ができる寺社の合葬墓を希望する方が多く、寺社・民間施設および自治体が設置する合葬墓の永代供養ができる場所を含めると回答者全体の 42.4%（217 人）で令和３年度の 30%を 12.4%上回る結果であった。

③ 合同納骨塚の利用見込みおよび利用予定年数について

回答者のうち、合同納骨塚の利用を希望する方は 335 人(67.5%)であり、R3 年度の利用希望 56.5%を 10%以上上回る結果であった。利用希望者のうち、利用予定を 10 年以内と回答した方は 37.7%で R3 年度 32.8%と比較して 5%上回る結果であった。

（４）アンケート分析内容からの考察

令和３年度アンケートでの結果と同様に墓地返還後や本人・家族の納骨先として永代供養ができる場所を望む声は増加傾向であった。

また、町が合同納骨塚を設置した場合の利用希望について、約７割が利用したいと回答しており、前回調査した令和３年度と比較して、１割以上希望者が増加した結果であった。合同納骨塚の利用予定については、10 年以内という回答の割合が令和３年度と比べ５％増加しており、利用希望の増加及び利用年度の早期化が見られる回答となり、町民の合同納骨塚に関する関心と需要が高まっている結果となった。

記述意見においても、将来的な納骨先として合同納骨塚という選択肢が必要となっており、町が合同納骨塚を整備することに対して、８割以上が肯定的な意見であった。

2 宗教団体意見聴取結果

（１）宗教団体意見聴取実施期間

令和５年８月３１日（木）から１０月１６日（月）

（２）合同納骨塚整備意向結果

令和５年度	賛成	９団体	どちらでもない	２団体	反対	２団体	計 13 団体
※平成 31 年度	賛成	２団体	どちらでもない	４団体	反対	７団体	計 13 団体

3 合同納骨塚の整備方針

合同納骨塚の需要は年々高まっており、これからも需要は増加傾向である。また、宗教団体の意見聴取結果では、少子高齢化や核家族化が進んでいることもあり、前回の賛成２団体から９団体に大幅に増えた状況からも町は合同納骨塚の整備を実施する時期と判断する。

整備にあたっては、使用要件など他自治体の取り扱い事項に留意しながら、令和 7 年度の整備に向けて準備を進める。

令和5年度町民アンケート結果・考察

①町民アンケート実施期間
　令和５年７月１９日（水）から７月３１日（月）
②送付及び回答数（回答総数：512人）
　＜２０代以上の町民(郵送)＞　　回答者：229人
　＜家族に障がいを持つ方の会＞　回答者：15人
　＜芽室町公式LINE＞　　回答者：274人
　（登録者：5,138人　令和５年７月１８日現在）

≪回答年齢層≫

項目	回答数	割合	R3回答割合	比較値
20代	21	4.1%	3.4%	0.6%
30代	30	5.8%	8.6%	-2.7%
40代	66	12.9%	12.8%	-0.2%
50代	96	18.8%	19.7%	-0.8%
60代	139	27.1%	25.9%	0.9%
70代	113	22.1%	21.7%	0.5%
80代	47	9.2%	7.9%	1.3%
計	512	100.0%		

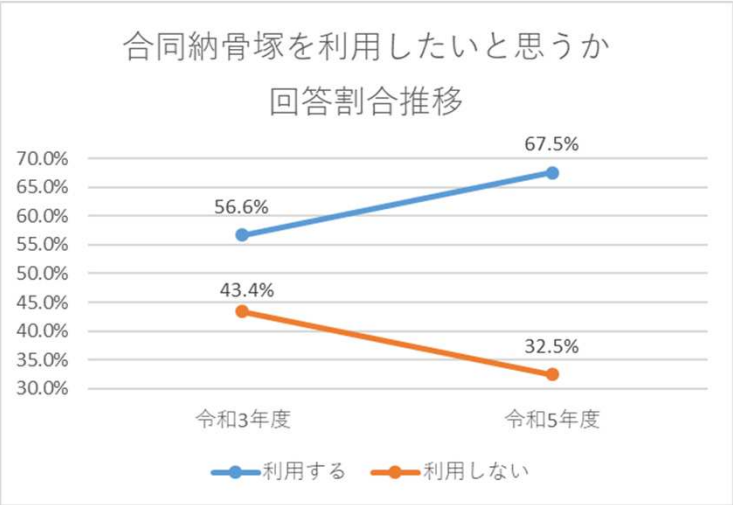
60代の回答が最も多く、次いで70代、50代の回答が多く、特に60代以降の回答が全体の半数以上（58.2%）となった。
回答年齢層の分布は、前回（R3）のアンケート実施と比較して、60代以上の割合が増加している。年齢層が高く、自身や家族のお墓のことに関心のある方々のアンケート回答が多かった。

≪合同納骨塚を利用したいと思うか≫

項目	令和3年度	令和5年度
利用する	358	335
利用しない	274	161
計	632	496

※R5無回答:16件

利用希望については増加傾向にあり、R３の利用希望者の割合は5割強であるが、R5では約７割を占める結果となっており、合同納骨塚の需要が高まっている。

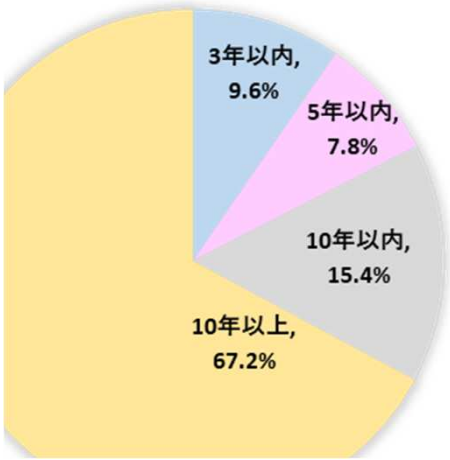


≪何年後から利用したいと思うか≫

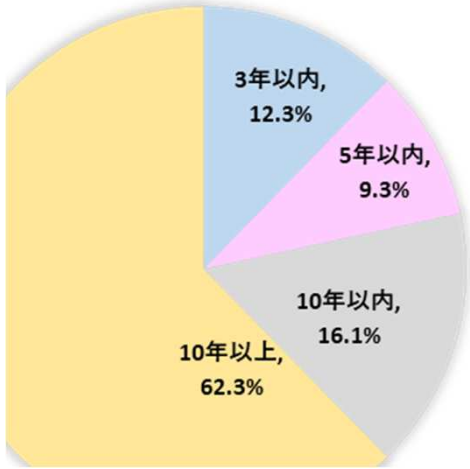
項目	令和3年度	令和5年度
3年以内	33	41
5年以内	27	31
10年以内	53	54
10年以上	231	208
計	344	334

R3から比較して、10年以内の利用希望割合が増加している。
（全体の内10年以内に利用したい比率　**R3:32.8%　R5:37.7%**）
回答年齢層に大幅な変動はないが、利用希望の増加及び利用年度の早期化が見られる回答となったことは、町民の合同納骨塚に関する関心と需要が高まっている。

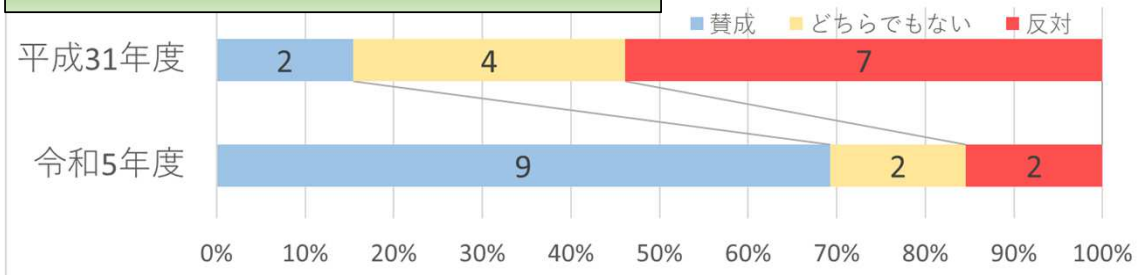
R3



R5



宗教団体意見聴取結果について



①宗教団体意見聴取実施期間
　令和５年８月３１日（木）から１０月１６日（月）
②合同納骨塚整備意向結果
令和５年度　賛成　９団体　どちらでもない　２団体　反対　２団体
平成31年度　賛成　２団体　どちらでもない　４団体　反対　７団体
③町の合同納骨塚の整備方針
　合同納骨塚の需要は年々高まっており、これからも需要は増加傾向である。また、宗教団体の意見聴取結果では、少子高齢化や核家族化が進んでいることもあり、前回の賛成２団体から９団体に大幅に増えた状況からも町は合同納骨塚の整備を実施する時期と判断する。

≪宗教団体の意見≫

賛成
・家庭の事情により仕方ない
・他自治体での納骨は疑問、地元においてあげたい
・合同納骨を助長しない仕組みづくりは必要
・面倒だから合同納骨ではなく、事情を確認してからという条件付きがよい
・困っている人もいるだろうと思うので町でよく検討してくれればよい
・やむを得ない、お骨が放置されるよりよい
・作るのであれば、宗教関係なく利用できるようにしてもらいたい
・各自治体にあってもおかしくないのでは
反対
・祖先を敬う気持ちが失われる
・宗教性を失い心が荒むことにつながる
・永代供養は生きている者の務め
・子どもが面倒を見るのは当たり前、先祖からそうしてきた
・必ずどこかのお寺とつながっている、まずお寺に相談すべき
・お骨の捨て場として、お骨の管理放棄を助長する
・仏の面倒を見られないは建前で、面倒見たくない、安く済ませたいが本音
・都会ほどお骨の問題は芽室町には存在しない
・大体のお寺には無縁合葬墓があるはず、それで事足りると思う
・寺としての生活もあり、檀家の減少は困る
どちらでも
・それぞれのお寺で仏教を普及している、その努力も必要
・遺骨を引き取らない人たちが、町で埋葬を求める事案が多くなるのでは

≪町民アンケートの代表的な意見≫

賛成
・高齢化、単身化、転出増により、お墓の管理に不安
・経済的に負担減になる
・後継者がいない
・芽室でお参りをしたい
反対
・後継者がいる
・お骨が混ざることに忌避感を感じる
・既に寺社の納骨塚を利用している

≪宗教団体・町民意見を比較して≫

宗教団体は、お墓の管理負担・経済的負担よりも宗教観を重視している傾向がある。
逆に町民は、管理負担・経済的負担を重視する傾向が強い。
時代背景としても、少子高齢化・単身化が進み、一個人・一家庭で先祖を供養する負担は増加していると思われる。就職・婚姻等で町外転出するため、親族が芽室にいないことから親族に自身のお墓の管理で負担を掛けたくないという意見も多く見られた。

≪直近5年間における改葬件数≫

区分	H31	R2	R3	R4	R5.7時点
改葬許可件数	9	10	6	13	11
うち町外改葬件数	7	10	6	10	7
町外改葬割合	77.8%	100.0%	100.0%	76.9%	63.6%
詳細内訳					
霊園　→　町内				3	4
霊園　→　町外	2	2	1	4	3
地区墓地　→　町外		1		1	
寺院　→　町外	6	7	5	4	4
町外霊園　→　寺院	1				
町外寺院　→　町外				1	

≪芽室町内の改葬状況≫

様々な理由により改葬が行われるが、直近５年では平均して８割が町外への改葬となっており、特に隣町の中島霊園への改葬が多い。
（12件/40件）
また、中島霊園合同納骨塚の他、札幌市・音更町の合同納骨塚に改葬しているケースもあり、既に合同納骨塚を利用せざるを得ないケースも出ている。